

令和2年9月25日

# 南の風 For Junior 12

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号の発展として、5人のスペーシングについて紹介します。以前に南の風で取り上げたものを選手の皆さんに、できるだけ分かりやすく説明します。参考になればと思います。

ここでもペイントへのドライブから始めます。アライメント（位置取り）はツウガードポジション（スリーポイントラインの上のトップの位置）に2人、ウイングにそれぞれ2人、ショートコーナーに1人という4アウト1インとします。

各選手間のスペースは、ミニバスではワンギャップ（約4～5m）が基本となります。強いパスが届く距離です。このスペーシングについては最後に触れたいと思います。

リングに向かって右ウイングのエンドライン側へのドライブから始めます。ドリブラーに近いツウガードポジションの選手は、**ドラッグ**（ドリブラーが元いた場所に移動すること）します。

逆側のガードの選手は、**セーフティー**の位置に動きます。この動きを**ディフェンス**と呼びます。

逆側のウイングの選手は、コーナーに移動です。**ドリフト**（ドライブする選手から離れるように動く）です。

ショートコーナーにいた選手は、**ティーアップ**（エルボーに上がる）します。

次にリングに向かって右ウイングのミドルライン側のドライブへの合わせです。この場合は、ショートコーナーにいた選手の動きだけが異なります。ティーアップはせずに、逆サイドのショートコーナーに動きます。

逆サイドのウイングの選手は、ドリブラーの動き（止まったり、方向を変えたりする）に合わせて、コーナーに行かずに**ダイブ**（ゴールに向かって飛び込んでいく）することもあります。

他の選手は基本的に同じ動きになります。

ドライブした選手が、1on1でシュートまで行ければ言うことはないのですが、ディフェンスもヘルプをして対応してきます。この時チームとしてなんの決まりもなく、周りの味方が動いたのではチャンスになる可能性は低くなります。また役割のはっきりしない合わせでもチャンスは広がりません。

そこで上に示したように、チームとして基本の動きを覚えておくとう便利です。それぞれの合わせの動きと意味を理解し整理することによって、選手同士が重なったり、邪魔したりしないようにしましょう。基本的には、ヘルプに来たディフェンスのマークマンがノーマークになります。

ドライブが起きた場合、周りのヘルプディフェンスはボールに向かっていきます。そのため、オフェンス側はボールから離れる動きや、味方が動いて空いた空間に移動することでスペースをとることができるのです。

今紹介したドライブからの合わせは基本のパターンです。次に応用も二つ紹介します。

一つ目です。ツウガードの1人がスロットライン（フリースローの横のライン）にドライブを始めた場合は、両ウイングはそれぞれのコーナーに向かいます。もう1人のガードはセーフティーの位置に移動します。逆サイドのショートコーナーの選手は、ティーアップして合わせます。次号に続けます。